

## 良好な海洋環境の保全をめざして

プロジェクト研究

「日本近海における海洋環境の保全に関する研究」

下水道研究部 下水道研究室 室長 榊原 隆 研究官 遠藤 淳



近年、日本近海諸国の経済発展はめざましいものがあり、環日本海経済圏を成立しつつある。一方、産業の発展と人口の増加に伴い、工場排水や生活排水に起因する水質汚濁も進行している。特に近年は有害赤潮の発生、エチゼンクラゲの大量発生等の現象に象徴される汚濁の顕在化が頻発している。

このような状況に対し、日本近海諸国は水質汚濁防止に向けて様々な取り組みをしており、特に生活排水に起因する汚濁の削減については、下水道の整備等が進められ、一定の効果を挙げているが、まだ十分とはいえない状況にある。

折からこの4月に海洋基本法が成立し、海洋政策本部が設置され、我が国としても海洋に関する諸課題に国を挙げて取り組み体制が構築されたところであるが、その中でも国土の一部である領海あるいは排他的経済水域等の海洋環境の管理が急務である。

このような背景から、来年度より本格的な研究に着手し、日本近海の水質汚染の状況および陸域

からの排出負荷量の把握、水質汚染のシミュレーションモデルによる関係諸国の陸域対策の評価等を行い、日本近海において望ましい海洋環境を取り戻すために必要な陸域対策の検討を行う予定である。

これに先行して、2008年2月に北九州市およびつくば市にて、関係諸国の研究者が参加して、国際シンポジウム「日本近海における海洋環境—その現状と将来像」を開催し、情報収集・発信を行っている。



写真－1：国際シンポジウム（2008年2月）